



てんやくしゃ
点訳者

山口県盲人福祉協会点字図書館
篠田 靖子さん
下関市出身

Q この職業を選んだの？

高校生の頃、文化祭で青年赤十字クラブが点筆を指導するコーナーを見かけました。点字をやってみたくて、前にはありませんでしたが、その機を逃してしまいました。50歳を過ぎ、缶酎ハイにある点字がとても気になったことと、くすぶっていた思いが重なり、点字入門講座に申し込みました。点字を学ぶ日はとても楽しかったです。そんな中、点字図書館に職員が出て、私が掛かりました。自信がなく一度は断りましたが、夫の後押しがありました。引き受けることになりました。

Q 仕事をしているの？

目の不自由な方が、健常者と同様に情報を得ることができるよう支援する仕事です。具体的には、事業者からの依頼文章を点訳します。市報や会計報告書、点字ニュース、書籍などを作っています。現在の点訳はパソコンと専用ソフトを使っています。細かいルールが掲載されている「点訳の手引き」を参考に、言葉の書き方、数字・アルファベットを、点を組み合わせて1ペー18行32マスに収めます。そして、点訳したものが打ち間違っていないか、視覚障害者と協力して、2人1組になって読み合わせ（校正作業）を行います。

仕事図鑑



このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。



Q どんなときにやりがいを感じるの？

この仕事は、「すごいね」と言われることは少ないです。でも、小説を点訳していた私にとつては、幅広い読みものを点訳できるようになったことが、やりがいになっていきます。また現在、点訳者として、考古博物館のユニバーサルデザイン化に携わっていて、展示物のキャプションを点字化している最中です。完成したらみんなに喜んでもらえるかなと夢を見ています。



① 日々、ボランティアグループで点字を勉強。② 左右の指3本を使い、キーボード「SDFJKL」の組み合わせで点字を表記。③ 点訳作業の様子。

★ **点訳者を目指す君へメッセージ**

正直、この仕事で生計を立てることは難しいですが、人の役に立っている仕事です。点字を覚えるのに年齢は関係ありません。点字ボランティアグループや通信講座でいつでも学ぶことはできます。学校の長い休みを利用して点訳のボランティアグループで教えてもらうのも良いと思いますよ。

【取材協力】
山口県盲人福祉協会
(☎ 231 7114)